

学会賞

学会賞（論文賞）

回	年	受賞論文
第1回	2003	望月 要・佐藤方哉（2003）. 行動分析学における“パーソナリティ”研究 行動分析学研究, 17(1), 42-54.
第2回	2004	小田史子（2004）. オペラント条件づけによる子イヌのトイレトレーニング: 家庭における室内トイレトレーニングの介入事例 行動分析学研究, 18(1), 10-24.
第3回	2005	中野良顕（2005）. 行動倫理学の確立に向けて: EST時代の行動分析の倫理. 行動分析学研究, 19(1), 18-51.
第4回	2006-2008	奥田健次（2005）. 不登校を示した高機能広汎生発達障害児への登校支援のための行動コンサルテーションの効果. 行動分析学研究, 20(1), 2-12
第5回	2009-2011	丹野貴行・坂上貴之（2011）. 行動分析学における微視-巨視論争の整理, 25(2), 109-126
第6回	2012-2014	松本啓子・村井佳比子・眞邊一近（2014）. 美容師の指名客数増加のための社会的スキルトレーニングの効果, 行動分析学研究, 29(1), 2-18.
第7回	2015-2017	山岸直基（2017）. 人間における時間間隔をおいた行動の形成-並行スケジュールによる行動の変異と淘汰の制御, 行動分析学研究, 32(1), 2-20.

注：データは、各年度の理事会および社員総会で報告された資料より作成

学会賞（実践賞）

回	年	受賞者
第1回	2003	高畑庄蔵（富山大学教育学部附属養護学校）
第2回	2004	野口幸弘（大野城すばる園）
第3回	2005	山崎裕司（高知リハビリテーション学院）
第4回	2006	勿田文記（国立職業リハビリテーションセンター）
		アニマルファンシィアーズクラブ（代表：佐良直美）
		京都市立総合支援学校（全7校）（代表：朝野 浩（西総合支援学校長））
第5回	2007	受賞者なし
第6回	2008	武田建（関西福祉科学大学）
第7回	2009	藤坂龍司（NPO法人つみきの会）
第8回	2010	受賞者なし
第9回	2011	徳島ABA研究会（代表：田中清章（徳島県立阿南支援学校））
第10回	2012	飯田美枝子（元小田原養護学校長）
第11回	2013	受賞者なし
第12回	2014	鎌倉やよい（愛知県立大学）
第13回	2017	特定非営利活動法人 ADDS（共同代表：熊 仁美・竹内弓乃）
		石黒康夫（逗子市教育委員会）
第14回	2020	山本央子（京都動物愛護センター）

注：データは、各年度の理事会および社員総会で報告された資料より作成。
受賞者の所属は、受賞当時のもの。